

令和2年白老町議会駅北観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会会議録

令和2年 2月14日（金曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午後 0時04分

○会議に付した事件

1. 地域DMO本登録に向けた取組状況について
 2. 観光商業ゾーン指定管理業務における開業準備の進捗状況について
 3. ロングランイベントの開催について
 4. 白老駅周辺関連施設の供用開始記念式典の開催について
 5. その他
-

○出席委員（13名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	久保一美君	委員	佐藤雄大君
委員	貳又聖規君	委員	西田祐子君
委員	前田博之君	委員	大淵紀夫君
委員	吉谷一孝君	委員	小西秀延君
委員	及川保君	委員	長谷川かおり君
委員	氏家裕治君	議長	松田謙吾君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

副町長	古俣博之君
副町長	竹田敏雄君
企画課長	工藤智寿君
経済振興課長	藤澤文一君
経済振興課参事	臼杵誠君
アイヌ総合政策課長	三宮賢豊君
経済振興課主幹	太田誠君
経済振興課主幹	菊池拓二君
アイヌ総合政策課主査	八木橋直紀君
企画課主幹	喜尾盛頭君

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	高 橋 裕 明 君
主 査	小 野 寺 修 男 君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これより駅北地区観光商業ゾーン整備・活性化促進特別委員会を開会いたします。

（午前10時00分）

○委員長（広地紀彰君） 本日の委員会の日程等についてであります。

調査事項は、1項目め、地域DMO本登録に向けた取組状況について。2項目め、観光商業ゾーン指定管理業務における開業準備の進捗状況について。3項目め、ロングランイベントの開催について。4項目め、白老駅周辺関連施設の供用開始記念式典の開催について。5項目め、その他についてであります。

このことについて町側から説明を受けて質疑等を行います。

よって本日の会議は1日間といたします。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ご異議なしと認めます。

それでは、1項目めの地域DMO本登録に向けた取組状況について町側からの説明を求めます。

竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） おはようございます。特別委員会の開催にあたりまして、最初に私のほうからちょっとお時間をいただいてご説明をさせていただきたいと思っております。

平成29年度から始まったウポポイの本格的な工事等合わせ、国や北海道、白老町が進めてきた受け入れ態勢の充実を図るための関連工事につきましてははいよいよ終盤を迎え、3月14日に念願の特急北斗の発停車に合わせ、JR白老駅周辺の関連施設の供用開始式典を開催する運びとなりました。これまで国や北海道をはじめ、関係各位のご協力による整備を進めることができましたことに感謝を申し上げる次第であります。本町にとっては4月24日のウポポイ開設がゴールではなく、まちの活性化につなげるスタートの地点だと捉えております。これから白老町にお越しいただく多くの来訪者の方々に対して、いかにまちの魅力と可能性を伝えていくことが重要であるかと考えております。本日の調査項目、4項目につきましては、まさにこれからの白老町を大きく変える重要な事項であると考えております。詳細につきましては、各担当から順次説明をいたしますのでよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） それでは調査項目、1番目、地域DMO本登録に向けた取組状況についてご説明をさせていただきます。

まず初めに、特別委員の設置ということでございます。日本版DMO（地域DMO）の候補法人の登録を受け、令和元年8月7日に一般社団法人白老観光協会の理事及び会員7名により、特別委員会を設置し、これまで3回にわたり議論を重ね、今後地域DMOとして実施する収益事業などの

内容について検討作業が進められました。

続きまして、戦略協議会の設置です。地域DMOの登録要件である、多様な関係者の合意形成を図るため、地域資源の活用を図る上で関係する、下記の18団体において「白老まちづくりDMO戦略協議会」が令和2年2月7日金曜日に第1回目の協議会が開催したところであり、今後年間3回程度の開催を経て本登録を目指すところであります。構成団体については、こちらの記載のとおりとなっております。地域DMOの本登録に向けては、地域の多様な関係者の合意形成を図る仕組みということが必要条件になっておりますので、今後においては観光の入り込み客数だとか、観光消費額ですとか、そういうようなデータをもとに取組のどういうふうに関地域を回遊していくかですとか、旅行消費の造成だとか、そういうような企画立案、またこちらの協議会の合意形成を図りながらターゲット等々の戦略策定や、観光コンテンツの造成、受け入れ環境の整備を図りながら、地方誘客や旅行消費の拡大につなげたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） それでは、続きまして2項目めの観光商業ゾーン指定管理業務における開業準備の進捗状況について説明を求めます。

菊池経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（菊池拓二君） おはようございます。私のほうから2項目め、観光商業ゾーン指定管理業務における開業準備の進捗状況についてご報告させていただきます。

開業準備につきましては、昨年12月1日から白老観光協会を指定管理者として指定をされまして開業準備に入っているところであります。現在の観光協会の職員の体制でございまして、総勢8名ということでございます。正職員5名、臨時職員を採用しつつ3名の合計8名で指定管理業務の準備をしているところでございます。また、地域おこし協力隊の方、1名が観光振興という業務の中で採用され、現在観光インフォメーションセンターを拠点として活動するというところで、この地域おこし協力隊の方も交えながら、現在4月1日の供用開始に向けて準備を進めているところでございます。

指定管理業務の準備内容につきましては、白老町と協定を結んだ中の業務としまして、観光情報発信機能の整備、施設管理用備品の設置、観光案内板の作成、職員の接遇研修等々を進めておりまして、ポロトミンタラのロゴマークの作成も合わせて行っております。こちらのポロトミンタラにつきましては、昨年の9月に町民の方々に投票をいただいて決定した観光商業ゾーンの愛称ポロトミンタラにふさわしいロゴマークを作成ということで、製作者は地域おこし協力隊で活躍されている林オルガさんのほうにお願いをしまして、コンセプトに基づいて記載のロゴマークを作成していただいたところでございます。こちらのロゴマークの発表につきましては、来月の3月号の広報で発表したいと考えているところでございます。

また、指定管理業務以外の業務ということで自主事業、観光協会の運営を安定的に行うための自主事業ということでございまして、この観光インフォメーションセンターで行う地域商品の販売、こちらの販売要領を制定し、どのような商品をインフォメーションセンターのほうで展開していくかということで、現在地場産品を中心に販売商品の選定作業を進めているところでございます。ま

た、インフォメーションセンターにはチャレンジショップ機能も備えておりますので、こちらのチャレンジショップ機能の運営要領の制定を進め、こちらで販売する商品の開発等々を進めているところでございます。以上、2項目めの進捗状況でございます。

○委員長（広地紀彰君） 続きまして、3項目めのロングランイベントの開催について説明を求めます。

菊池経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（菊池拓二君） それでは、3項目め、ロングランイベントの開催についてご説明させていただきたいと思っております。

ロングランイベントの開催につきましては、開催目的は記載のとおりでございますが、ウポポイの開設にあわせまして、さらなる町内への回遊性、まちの魅力の発信を合わせて行っていきたいという考えのもとに、今回整備しました行政整備区域、インフォメーションセンターの横、交流広場を拠点としてイベントのほうを4月24日スタートから8月上旬ぐらいまでの期間において地域の魅力発信を行うイベントのほうを展開していきたいと考えております。現在、どのようなイベントをするか、観光協会や商工会等々を含めまして検討している状況でございます。今、イメージしているのは、4月24日からスタートしまして、週末にいろいろなイベントをやりたいということで、運営イメージが下に書いておりますが、全て白老町でロングランの長期間にわたってイベントを管理運営するのは非常に厳しいと考えております。現在考えているのは、既存のまちのいろいろなイベント、またこれから新たに創出するようなイベント、または白老のみならず近隣の市町村を交えたような広域的な連携の中でのイベント、これらを柱に展開していき、さらなる魅力発信をこの地域一丸となって進めていきたいと考えております。このロングランイベントの詳細につきましては、現在検討業務のほうで発注しておりまして、3月中にはどのようなスケジュール間で、どのようなイベントを誰がプレイヤーになってやっていくのか、この辺につきまして決定していきたいと考えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 続きまして、4項目めの白老駅周辺関連施設の供用開始記念式典の開催について説明を求めます。

喜尾企画課主幹。

○企画課主幹（喜尾盛頭君） 企画課、喜尾です。私からは調査項目の4番目、白老駅周辺関連施設の供用開始記念式典の開催につきまして説明をさせていただきます。

まず、開催の趣旨でございます。4月24日に開設されますウポポイ（民族共生象徴空間）への年間来場者数目標100万人の達成に向けまして、白老町、北海道、北海道旅客鉄道株式会社の3者が交通アクセス改善のために行ってきた駅のバリアフリー化や自由通路の整備、また駅前広場整備や駅舎リニューアルなどの白老駅周辺整備事業につきまして、工事の進捗によりましてウポポイ開設の前に供用開始が可能になったこと。また春のダイヤ改正によりまして長年の念願でありました「特急北斗」が白老駅に停車することから、その初停車の歓迎と施設の供用開始などを祝うイベントを開催し、約1カ月後に迫るウポポイの開設に向けた機運醸成を図るものでございます。

次に、開催日、開催場所及びイベントの内容についてでございます。開催日は、JRのダイヤ改正日となります令和2年3月14日の土曜日になります。まず、イベントのスタートにつきましては、特急北斗初停車の歓迎を考えております。6時2分函館駅を出発しました札幌方面下り特急北斗1号が8時49分白老駅発なので、8時49分前に白老駅に初停車することになりますことから、下り線となります北側のホーム内におきまして手旗ですとか、横断幕を持って歓迎したいということで考えてございます。

続きまして、自由通路の渡り初めに移るという考えでございます。自由通路、町道末広東町通りが供用開始になりますことから、自由通路の南側から北側に向けまして渡り初めという形で行うことを考えてございます。渡り初めのあとにつきましては、時間は調整中でございますが、一般供用開始となる見込みでございます。その際、臨時改札口につきましては、ウポポイの開設にあわせて供用開始を予定しているものでありますから、しばらくの間は臨時改札口は使用しない予定でございます。次に会場を白老経済センターに移しまして、白老駅周辺整備事業における施設のオープニングセレモニーを開催いたします。会場におきましては、一般社団法人白老アイヌ協会によるムックリ演奏やアイヌ古式舞踊の披露を皮切りにスタートしていただきますが、それに先駆けまして全てのイベントの開始前になりますので8時前ぐらいに白老駅前にありますチェッカの広場でカムイノミを実施いただく予定となっております。その後、主催者、来賓者のご挨拶をいただいた後に、ウポポイや白老駅周辺整備事業等の概要説明を行いまして、最後はオハウやエント茶などアイヌの伝統食の試食会で幕を閉じる予定でございます。その後、JR白老駅舎、自由通路、観光インフォメーションセンターなどを自由見学していただく予定でございます。参集範囲につきましては、町議会議員の皆様のほか、各町内会長にもお声かけする予定でございます。また、アイヌ関連団体や町内外の商業観光関係者、また管内の首長、議長、工事施工業者など、関係者などの予定でございます。近日中に招待状を発送する予定としてございます。

○委員長（広地紀彰君） ただいま4項目にわたる説明がありましたが、質疑をお受けいたします。

質疑がありましたらどうぞ。

6番、前田博之委員。

○委員（前田博之君） 何点か質問します。まず、2、観光商業ゾーン指定管理業務における開業準備の進捗状況です。これは内容的なことは別にして、新たに観光協会がインフォメーションセンターに入る。そして指定管理を行うということで、その当初の立ち上げ、そして当初からスムーズな運営ができるか。あるいは、これは観光協会なのか町も関わっているのか。この中でいろいろな事業をやりますけれども、それに対しての経営理念、こういうものがやはり一つの方向性、実施の中で示していかないと思いますけれども、これは町の施策もいろいろ兼ね合いが出てきますね。そういう部分との整合性、それを含めて町としての指導、関わり、これは非常に重要だと思いますけれども、町として人的な部分を含めてどのような関わりを持って、この指導体制、1年ぐらいになるかどうか分かりませんが、その辺を町としての指導監督の立場でどういうふう施策と関わって、よりよい効果を上げるかという部分の人的な関わりはどのように考えているのか、こ

それは副町長ではないと答弁できないと思いますので、担当者ではなくて副町長のほうからお願いします。

それとロングランイベントの開催、内容については別です。昨日、登別市と白老町の議会で研修をやって、財団の今井専務が連休を含めてオープン時にすごく交通混雑するだろうという話がありましたけれども、このイベントの中で4月24日から8月で行いますけれども、このイベントの期間、かなりの方が来ると思いますけれども、交通整理、誘導が必要だと思いますけれども、その辺の流れと、これにかかる人件費はこの実行委員会の人方が持ってきちんとやるのか、その辺の整理の仕方はどうなっているかお聞きしておきます。これは誘導員の人件費は非常に大事だと思います。今はっきりしていないと思うのだけれども、これはやはり実行委員会がそういうことを含めてきちんと見ていくような指導をするのか、その辺が大事だと思います。

次に、4番目の白老駅周辺関連施設の供用開始記念式典の開催についてです。式典云々ではなくて、先般1月21日に白老町とJR北海道と胆振総合局から資料を議員のほうに配布されました。この中で、供用開始の中で自由通路における臨時改札を使用するとありました。この臨時改札をする流れはどういう流れになっていくのかということで、臨時改札の使用開始とありますけれども、この流れ、そしてまとめて聞きますけれども、これの人件費とか、物件費はJR北海道が持つのかどうか、この経費負担と、そして臨時改札口はいつまで設けるのか、その辺をお聞きしておきます。これは前から議論しているのですけれども、町側から明確な回答がきていないのです。なくすのではなくて、やはり町民も利用するのではっきりきちんと整理をしておかないといけないと思うのでお聞きしておきます。

それと、その他です。一つは、これは細かいことなのだけれども、昨日ずっと視察で歩いてみたのですけれども、駅から東町の間に今にも崩れそうな、すごい廃屋があるのです。多分知っていると思います。あの廃屋は非常に景観上、誰が持っているかということは別にして、あくまでも景観上、あそこはすごく損ねているのです。あれはどういう指導をされているのか。あるいは気づいているかどうか。その辺やはり大事だと思います。

それともう1点は、星野リゾートのホテルの計画が、前回では2月か3月にめどがつくと言っていましたけれども、実際に着工をするという意味の中で計画されているのか。いつ着工し、いつごろオープンするのか。それと、町民が望んでいる日帰り入浴の併設、これらはどうなっているのか、その辺お聞きします。

○委員長（広地紀彰君） それでは、その他を含めて4点ございました。

竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） それでは観光協会の運営に関する指導の関係ですけれども、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。観光協会に関しましては、いろいろな目的を持ってインフォメーションセンターの中で業務をやっていくという形になります。その目的を達成するために、前田委員が言われたように、まちのほうとしても関わっていかなければならないと私も思っていますし、それは大事なことだと考えております。ただ、この時点でその手法をこういうふうにします

とか、そういうふうなところはちょっと今は言える状況ではないということなのです。それは人事の部分もありますし、また観光協会等の協議も出てきますので、そういったものを進めながら、今前田委員の言われた重要性を十分考えながら取り組んでいきたいと思っていますので、今少し時間をいただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 菊池経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（菊池拓二君） 2点目のロングランイベントもろもろオープン後の交通渋滞、整理等々につきましては、まずアイヌ文化財団と白老町と関係する機関と、この辺はやはり問題として捉えられていまして、私ども白老町ではちょうどウポポイに入るところでインフォメーションセンターがあって、駐車場も無料でございます。そういうことを考慮しますと、多分多くの車が来るのではないかと捉えております。その中でまたイベントを重ねていくということになりますと、もっとまた混雑が招くということで考えていまして、現在指定管理業務の中に、その公共駐車場も含めて交通整理、誘導することは業務としてまず入れておりますので、まず第1弾は指定管理者のほうで混雑の回避をしていただくということが一つです。二つ目には次の手段といたしましては、今度ロングランイベントをやる主催者、いろいろな団体がありますが、それを束ねるのは白老町が全体的な業務委託で束ねていこうと思っておりますので、そちらのほうのイベントの交通混雑については、イベント主催者と連携して合わせてやっていくということで、2段階でまず交通整理のほうをしていきたいと思っています。それに合わせまして、文化財団のウポポイに来られる方々の今度交通誘導もありますので、そこと現在どこをどういうふうに関連して役割を持って誘導整理をしていくかということ協議している段階でございますので、そちらはオープンに向けて整理のほうをしていきたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 私のほうからは臨時改札の関係のご質問にお答えさせていただきます。まず臨時改札の流れですけれども、ホームから乗りかえ跨線橋を通過して自由通路につながるのですけれども、自由通路のところに臨時改札を設置する予定でおります。人件費等については、一部やはり町のほうで負担するというような形になっていて、JR北海道との経費の負担については、ただいま協議中でございます。時間等については、今の予定としてはウポポイ開設と同時に臨時改札をするということで予定しております。時間については8時から18時と考えていて、ウポポイの休館日、月曜日は臨時改札は行わないというような形になっております。

○委員長（広地紀彰君） 菊池経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（菊池拓二君） その他の項目の2点あったかと思いますが、そのうちの最後の部分の星野リゾートさんのホテル計画の部分でございます。現在、星野リゾートさんとの窓口につきましては私のほう経済振興課のほうでやらせていただいております、具体的にこれから着工していくにあたりまして地元の事業者さん含めてどのように連携していけるか、この辺を星野さんと今協議を進めるところに立っております。現在の状況につきましては、来週ですが星野さんと私、町との協議を行いまして、具体的に私が今現在聞いている中では3月末から4月に遅れておりましたが

着工のほうを開始したいという意向で、遅れて町民の方々、皆様方にもご不安を与えているというところもありまして、早急に白老町とどのようなタイミングがいいのかも含めて概要のほうの発表のほうも進めていきたいというところで現在調整しております。あと確認申請のほうもおりと聞いております。オープンは今聞いているところでいくと来年の7月、8月以降と聞いておりますので、その辺も来週の打ち合わせの中で協議の中でまたつめていきたいと捉えているところでございます。現在、当初プロポーザルで行いましたときの条件の一つに町民を対象とした日帰り入浴というのは、これはもう最初から入っている要件でございますので、ここは必ず入れていくと聞いているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 私のほうから駅から東町に向かったところの、所有者はおりますので建物の関係についてご説明したいと思います。状況としては委員の皆様は大体わかっているのかと思うのですが、その所有者に対して指導というのですか、そういうことは現在ではしておりませんので、あの建物をすぐ撤去してくださいと行って、わかりましたとなればいいのですが、なかなかならない部分もありますので、これはオープンもありますし、それから将来もありますので、所有者の方とお話をさせてもらって、できるだけ環境改善に努めるだとか、そういった部分で協議をさせてもらって、できるだけよい形にしていきたいと思っていますので、ちょっと時間はかかるかもしれないですが、そういう形で進めていきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 6番、前田博之委員。

○委員（前田博之君） 観光商業ゾーンの指定管理にかかる町の関わり、今後これから考えるといっていますけれども、これは立ち上げが非常に重要だと思いますし、観光協会の組織体制になるので云々言いませんけれども、やはりよりよい状態みたいなのところもありますので、やはり町として、ここの施設は私たちも成功してほしいのです。だから何を町は目指すのかということをお客協会の理念を持って、町職員の担当者、これは言葉いいかどうかわかりませんが、その思惑で観光協会を指導するのではなくて、町としてやはり一つの要項や方向性をみんなが共通するものをきちんとつくって、その中で指導していくということをししないと、立場のある職員が観光協会に行ってももの言っただと、そういうそごをおこさないようなきちんとした形の指導体制を私につくるべきだと思いますけれども、その辺はいかがかということでございます。

次、ロングランイベントについては交通整理わかりました。ただ、これはやはり事前に周辺の町民の方に予測して云々というのは適切かどうかわかりませんが、その辺の指導とか、理解を求めることをきちんとしておかないとだめだし、これは昨日も先ほど言った財団のほうで言っていましたけれども、財団のほうに入る方向と、うちが入る方向とか、いろいろ混雑しますので、その辺の意思の疎通は、ここだけでやればいいのかというのではなくて、あそこのゾーンを含んで双方とも交通整理をきちんと共通認識してやらないと逆に混雑すると思いますので、その辺のリードをどこにするのかわかりませんが、それは大事だと思いますけれども、その辺はいかがですか。

それで改札口なのだと思いますけれども、これは今担当から答弁ありましたけれども、改札時期は土日だ

けということなのですか。1週間でやっていつやって改札すると、時間は聞きましたけれども、いつまで臨時改札を設けるのかということ、JR北海道と町が負担するといっていますけれども、これもある程度、町が負担するのであれば4月からだと思うので、もう予算要求もしていると思うので、ある程度の人数と人件費、物件費分かりますと思いますけれども、隠さないできちんと言っておいたほうがいいと思います。皆さんで承知して、だからどうかではなくて、どういう形の中で管理していて、町がどういう関わりを持っているかということ町民にきちんと理解してもらってやっていかないと、後でどうしてJR北海道が持たないのかとなってくるのです。それはきちんと理解するという上で聞いていますので、何も隠さないできちんと言っておきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 1点目の指定管理のあり方、それから町の人的な関わり、そのこのところについて私のほうから人事の件もありますので答弁させていただきます。まず、このインフォメーションセンターがどういう役割のもとで建てられたかということ、これは言葉がちょっと適切ではないかもしれないけれども、観光協会の事務所を建てたわけではありませので、本町における観光振興の重要な拠点として総合的な案内、それから観光品の物販販売の大きな拠点としての位置づけをもって、この施設の使用は進めていかなければならないと思っています。ですから、今前田委員からご指摘があったような、しっかりとした町としての今言った押さえ方も具体的に観光協会と決めながら進めていかなければならない。そこで人的な配置については、先ほど竹田副町長のほうからもありましたけれども、このところは指導制はしっかりと町が観光協会に対してしていかなければならない。その中で具体的に言えば、あそこのインフォメーションセンターに町の職員が常駐するべきなのか。それから、または常駐という形だけではなくて、1週間に何日かだとか、それから一日の何時間だとか、そういうことについては今、人事の具体的な中でももう少しつめた形で押さえたいと思っています。いずれにしろ、最初に言ったようにしっかりと町としての指導性を発揮した運営をしていくようにしたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ロングランイベントの開催に伴っての交通整理、住民への周知、理解、促進というご質問でございます。ロングランイベントの開催にあたりましては、特に交通量もそうですけれども、例えば音の出るようなコンサートを実施するとすると、やはり騒音というところも危惧されるところもありますので、その辺はイベントの内容もそういったところにも配慮しながら企画していかないとならないと考えておりますし、交通の車両の流れに関しても、例えば大型のバスであれば、青看板の誘導サインによって例えばポロトの踏み切り側から入らないような工夫ですとか、そういった形で整理はされていくのかとは思いますが、いかんせん初めてやるイベントでございますので、どれぐらいの一般乗用者の想定があるかというところはちょっとわかりませんが、その辺の住民への周知というのは十分行ってまいりたいと思っていますし、それと合わせて先ほど星野リゾートさんのホテルの件もお話ありましたが、今度それと並行して工事車両の出入りというのも出てきますので、その辺も合わせて住民に周知はしていきたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 臨時改札の件でお話させていただきます。基本的にウポポイの営業日ということで、ウポポイの休業日は月曜日と年末年始ですので、そこ以外は臨時改札は行う予定でいます。時間帯については先ほど申し上げたとおり、8時から18時と考えております。基本的には臨時改札用務に関しては、一応3人体制で行っていただく予定で、1人大体130万円ぐらいの人件費に係るということで、総体としては400万円弱と考えております。また、いつまでやるかということでございますが、その部分についてはその利用状況だとか、そういうのも踏まえた上でいつまで開設するかというのは検討していきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 先ほどの藤澤経済振興課長の答弁と重なる部分がございますが、交通渋滞対策についてでございます。実は、町とそれから北海道開発局、北海道庁、アイヌ文化財団、こちらで交通アクセス検討会という作業部会を設けまして、こちらの中でウポポイ含めて、渋滞対策どうやったら解消できるかということですと1年ほど検討を重ねてきてございます。そういった中で、先ほど藤澤経済振興課長が答弁したとおり、青看板、国で設置しているもの、北海道で設置しているもの、それから町で案内板という形で設置しているものを誘導の流れを少し、例えば大滝線のほうから苫小牧側から来ると、大滝線の高速道路に入って周るといような、どうしても踏切をなると渋滞になるということも国も含めてそこをすごく懸念しておりまして、それをどう解消したらいいのかということで、看板の設置ですとか、それからアイヌ文化財団のほうでは、先ほど言われました誘導員もかなりの数の方を設置するやにも聞いてございます。まだ最終的にきっちりとしてこうやるというところではございませんけれども、そういった協議の中でいかに渋滞対策をきちんとやっていかなければいけないということは認識して今進めているというところでございます。

それから町民の理解が必要ですよということで、今前田委員のほうからありましたけれども、全くそのとおりでございまして、今考えておりますのが、町と、それからアイヌ文化財団のほうでウポポイの関連した町民説明会を2月26日に実施するというところで、18時から予定としているところでございます。これにつきましては広報をとおして周知をさせていただいておりますが、その中でも渋滞対策のお話も理解いただくように説明させていただきたいと考えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 6番、前田博之委員。

○委員（前田博之君） 町の職員というか、町の総合力が試されると思いますけれども、1点だけ聞いておきます。駅の改札口の話です。これは係る経費については予算等審査特別委員会で議論したいと思います。ただ、改札の流れ、答弁がなかったのですけれども。私のイメージでは下のほうの改札口を通過して上に行くのですか、ちょっとわからないのだけれども。逆に2階の通路に改札口ができますね。上がってきますね。そしてそこで白老の切符をもらうのですね。その下に降りても、すぐ北口からウポポイに行きますね。帰りも人によるけれども、大変な人は多分道がわからないから同じ道を帰ってきて、その改札口を通過してまた汽車に乗っていくのですね。何を言いたいかとい

ったら、そればかりやると南側にお客さんが来ないのです。本来、南側の商店街にお客さんが来てほしいといっているし、店舗があります。その誘導策はどうなっているかということ私は聞きたいのです。だからJR北海道はお客さんが来て、今言ったように400万円町がもって臨時改札口ずっと先ほどの答弁ではいつになるかわかりませんが、そこが大きなポイントなのです。400万円を出してお客さんみんな向こうへ行って南に来ないで、コーヒー一つ飲まないで帰られるのなら意味がないのです。いかに誘導するかということが大事だと思うのだけれども、その辺のもう少し具体的にあそこで下から上がって、それと上からすぐ切符を買う人はどうなるのですか。下りる人はわかるのだけれども、その辺ちょっと具体的流れを説明いただいて、それは町民の人にもどうやって行ったらいいですかと聞かれますね。それと2点目の通路に改札口をつくることによって南のほうにお客さんが流れてこないという懸念が十分にありますけれども、その辺の改札口をつくったときの議論されているのか。その後の対策についてどうかということをお聞きします。

○委員長（広地紀彰君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ただいまのご質問の趣旨としては、臨時改札口から、業務としては切符を回収するというところになります。ウポポイへ誘客、誘導する、利便性を高めるという意味では当然この改札口というのは有効なのかとは思いますが、では南側はどうかというようなご質問でございます。そこの部分につきましては、やはりその動線上に観光インフォメーションセンターがあるということであると、ウポポイの中で飲食を提供したり、お土産を買ったりという部分はありますけれども、そこで当然ながら消化できないといいますか、対応できない部分についてはやはり観光インフォメーションセンターの機能を生かして、商店街にこういうお店がありますといったような、そういうPRもさせていただきたいと思っています。それと合わせて、今日のこの特別委員会でお話しするのがいいのか、18日の日に全員協議会も予定されておりますが、その観光循環バス、これはアイヌの政策推進交付金の中で導入するバスの中で、ウポポイから商店街を周って駅の南側に回遊するような、そういうルート造成も検討しておりますので、その臨時改札口ができることによって南側にお客様が流れないというようなことがないように。むしろ南側にお客様をなるべく誘導するようにも、そういう取組も行っていきたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 臼杵経済振興課参事。

○経済振興課参事（臼杵 誠君） 大町商店街ですとか、東町の商店街に観光客が流れるようにといったようなところでいうと、役場のほうでもいろいろ商店街の方々と打ち合わせをしたりしている中で、商店街の方々の努力も最近いろいろ頑張っているというような話も出てはきているのですが、まず先ほどの答弁の繰り返しになる部分もあるのかもしれないのですが、観光インフォメーションセンターというのは、その名のとおり観光情報を提供するというところで、その中でいかに南側の商店街含めて白老町内外にどんなグルメのスポットがあるとか、どんな楽しいことがあるかというところを紹介をしていくところで、そこから情報を得て南側にぜひ行っていただきたいというようなところで、物販一つとっても、思想としてはそこで物が売ればいいという、売れるにこしたことはないのですけれども、売れるというよりも、その横に今考えているのは名刺代

の企業のPRペーパーとか置いて、一企業で10品あるとしたら全部インフォメーションセンターで扱ったらそこのお店に来なくていいことになるので、1品か2品かわからないですけども、そのぐらい置いて、うちのお店に来たらもっとたくさんたくさんあります、ぜひうちに来て下さいというようなことで人を流すというような周遊をしていただくというような仕組みもオープンにあたってつくっていく考えでございます。あと商店街の方々ともいろいろ最近議論をしたりしているんですけども、やはり観光客の荷物を預けるところが足りるのかどうかというところで、今まだ確定はしていないんですけども、先日ヤマト運輸さんと包括連携協定を結んだというのもあって、ヤマト運輸さんと南側にそういった預かり所ができないかですとか議論をしているところです。まだちょっと決まっているわけではないのですが、それとか商店街で統一的なフラッグというのでしょうか、商店街独自でいろいろ工夫をこらしているというようなことも聞いてございますので、駅の北側だけではなく南側、もしくは白老町全体、もしくは近郊含めて周遊性を高めるために取り組んでまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の質疑をお受けいたします。

10番、小西秀延委員。

○委員（小西秀延君） 資料の1と2、両方に関わってくるかと思えます。観光協会の業務のあり方というか、これから観光協会もウポポイ開設に伴い大きく変わってくると思うのですが、それで今回は指定管理者の指定管理業務ということで載っていきまして、指定管理業務以外の業務（自主事業）とあるのですが、そのほかに大型バス駐車場で収益事業を行うとか、また白老駅舎の管理委託業務で行うとか、駐車場の土地関係の貸付のほうとか、ちょっとその辺の関係がよくあまり今回の説明ではわからないのですが、その辺でどのように進んでおられるのか、分かる範囲で結構でございますのでもうちょっと詳しく教えていただきたいと思えます。

○委員長（広地紀彰君） 菊池経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（菊池拓二君） ただいまご質問ありました業務のあり方、観光協会の業務と指定管理者の業務ということで、今回の資料のつくり込みにつきましては、まず資料2につきましては指定管理者に特化した業務で載せさせてもらっていきまして、このインフォメーションセンターにかかわる業務を特化して自主事業のところに載せさせていただいておりますので、今回大型バスだとか、駅舎の管理という部分についてはこちらのほうに記載していないところでございますが、小西委員のほうからありました業務はまさに昨年の特別委員会でご説明させていただいた大きな大型バスの運営、駅舎の管理につきましては、このDMOを取得する観光協会が行う重要な事業ということでございますので、こちらも現在指定管理業務とは別に資料1のほうで現在観光協会が軸に特別委員会を設置し、多様な戦略協議会を設置してどのような業務をどうやっていくかというのはまさにこちらのほうで議論されているというところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 土地の貸付等々の具体的な部分をもう少し、説明できる範囲で結構です。

太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 大型バスの駐車場に関しては、第1駐車場ということと、第2

駐車場ということで、第1駐車場のほうは財団の向いにある駐車場でございます。第2駐車場が北海道栄高校の坂下にあるところに予定しております。基本的には普通財産の貸付で観光協会のほうに貸し付けたような形で、それを町に観光協会から納めてもらうような流れで考えております。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前10時48分

再開 午前10時49分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） 駐車場用地、あるいは駅舎の管理の部分でございますけれども、今いくらか貸し付けというのはちょっと手持ちで資料がないものですから後ほど答弁させていただきたいと思っておりますけれども、土地の貸付料としていただく部分と、それと駐車料金としていただく部分と、その部分は整理されたものはありますので、後ほど答弁させていただきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 10番、小西秀延委員。

○委員（小西秀延君） それではその部分についてはもう少し詳しくわかるときに資料もあればまた参考にさせていただきたいと思っております。

もう一つ、昨日、登別市議会議員さんとの研修会がありまして、インフォメーションセンターにご案内をまた改めてしてもらったのですが、チャレンジショップのほうの家賃は大体4万円いくらかで1カ月お貸ししますというようなお話も出ていて、今回ホールのほうも月6万円とかという家賃の設定があるというようなお話も聞いたのですが、あそこは観光協会が物販をするスペースだと私は理解していたのですけれども、それを貸す設定になっているというのはどういうことになっているのか、私の聞き違いだったのか、ちょっとわからなかったものですから、そこももう一度ご説明願いたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 菊池経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（菊池拓二君） 今回の指定管理のルールを決めるにあたりまして、明確に指定管理業務と収益事業、自主事業というのですが、これを明確に分けて、まず指定管理業務に係る分については当然、お金はいただかない。こちらから指定管理業務料としてお金をお支払いすると。片一方、自主事業につきましては、これは収益事業でございます、こちらについては収益があがりますのでいただくものはいただくと。行政財産を使っていただく。そこで収益をあげるということは貸付料をいただく。ここをスタートライン、ここを明確にしないとどこの収益、要は指定管理者の財布なのか、指定管理者である観光協会の財布なのか、ここを明確に分けて物事を進めないと後々トラブルになっていくということで、あそこの物販、物を売るところは指定管理業務としては、地域製品の展示だとか、PRという業務がまず一つありますけれども、その先には販売行為があります。この販売行為は指定管理業務ではなくて自主事業と位置づけておりますので、その物を、木の棚があったと思うのですが、あそこのエリアはお金をいただくということでございます。もう

一方、チャレンジショップにつきましても、こちらは収益を行う場所で、これは貸付、今現在観光協会が数年で借りて、観光協会が町内事業者から新商品を開発をしたので例えば2週間、そこで消費者ニーズをつかみたいので使わせてくださいといったらそこで一緒にやるようなイメージでやっていくということで、そこも収益事業ということで分けてお金をいただくということでございますので、貸付料のほうを条例のほうで設定しております。昨日の現場での説明がそういうことだったのかと思います。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前10時53分

再開 午前11時05分

○委員長（広地紀彰君） それでは休憩を閉じて会議を再開いたします。

まずはじめに小西委員からの質疑で保留になっていました答弁を求めます。

太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 大変申し訳ございませんでした。大型バスの駐車場に関しては、収支計画で収入として9,000台を見込んでおります。金額にすると1,700万円ぐらいを見込んでおります。土地の貸付についてであります。第1駐車場、第2駐車場ということで、普通財産の貸付で、約220万円を見込んでおります。また、駐車場の整備にかかった部分を10年間償還でこの部分も普通財産に上乗せをして、1年分で約230万円くらいで、令和2年度の貸付料としては約450万円を見込んでおります。また、駅舎全体の維持管理経費ということで、トイレと観光案内ブースと自由通路の清掃というものが出てきますので、またそれに伴う電気、水道、修繕、下水道料金を合わせると、大体500万円弱を予定しております。詳しい部分に関しては、予算等審査特別委員会の中でまたご説明させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 10番、小西秀延委員。

○委員（小西秀延君） 前の特別委員会でこういう事業が説明されていて、その後がちょっと見えなかったものですから質疑をさせてもらいましたが、もうすぐこの事業も始まる段階が近づいてきているということで、ある程度の人員というところとかもめどがついてきちんと進んでいるということであれば全然問題ないと思っているのですが、その辺はいかがでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 大型バスの駐車場に関しては、財団さんともまわしの部分ですとかというのは継続して協議をして大体固まっています。誘導だとかそういうのもスムーズに行えるよう、観光協会としては3名の人員体制でやり繰りをするという聞いております。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員の質疑をお受けいたします。

12番、長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） 12番、長谷川かおりです。確認の意味でお聞きします。臨時改札を通った方は必ず北口駅のほうに行かなければならないのか。それに伴いまして足です。ウポポイまで

北口のほうから歩ける方はいいのですけれども、タクシーが常に停まっている状態なのか。また、2月18日に元気号のお話とかも詳しくあるということでしたけれども、元気号が北口のほうに待機しているのか。または待機がなくて南口に来るの方の関係でしっかりと案内表示をするのかどうか、その辺を確認したいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 喜尾企画課主幹。

○企画課主幹（喜尾盛頭君） 詳しくは2月18日という話なのですが。まず臨時改札につきましては、自由通路の中間部分にできる予定でございます。自由通路につきましては、線路の南側と北側を結ぶ通路となっておりますので、そこを通りますと北側でも南側でも両方行けるようになります。一つタクシーにつきましては、基本的には南側に待機という形になります。それと観光型のバスにつきましては、南側の本当に駅のロータリーのところにバス停ができますので、そこで乗ることになります。あと元気号、またデマンドバスにつきましては、駅の南側と北側にも今回新たにバス停を設けるようになりますので、時間帯があっているかどうかというのはまた別な話なのですが、どちらからでも乗れる状態にはするという予定であります。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の質疑をお受けいたします。

4番、貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。私のほうからは、1点目のDMO本登録にかかることと、2点目の観光商業ゾーンの進捗状況に関することでお聞きしたいと思います。

まず、1点目のDMOの関係なのですけれども、先ほど古俣副町長のほうからご答弁ありました。これは商業ゾーンに係る部分ですが、観光協会の事務所に留まることではなくて、観光振興、重要な拠点であると、大きな拠点として捉えられているというご答弁ありました。私も本当にそのように考えております。それでやはり今大事なことは、いかに観光で1次産業を底上げするかという考えがこれとはとても大事だと思っております。それでこのDMO本登録に向けた取り組みの業務の中には、もちろんお客様を増やす、回遊性を高めるというのは大事なことです。いかに域内の調達率を高めるか。具体的に言うと、白老は漁業のまちでもあります。そのお魚をいかにウポポイで使っていただくか。ウポポイには100万人のお客様が来るわけですから、滞在時間が長ければこれはお食事を取ります。そうすると半分であっても50万食はお食事が提供される。これはウポポイの中もそうですし、社台から虎杖浜の飲食店、ここでも落ちるわけです。そういったときにいかに白老町で獲られたお魚が使われるかですとか、あとは牛肉に留まらず野菜やしいたけ等がありますから、それらがこのウポポイを起爆剤にしてそこに来られたお客さんにいかに食べていただくかということと、いきなり調達率を高めるという、これは非常に重要なミッションがあると思います。星野リゾートさんのお話もありました。そういったところに例えば白老のそういった食材を扱っていただきたいという、営業活動、これはDMOの仕事になるのか。それとも役場の仕事になるのか。それによっていろいろ変わってくるのかと思いますので、その辺のお考えをまずお聞きしたいと思います。やはり需要と供給のバランスが必ずこれは崩れるわけです。そのバランスが崩れると外から持ってきますね。そうなる外から持ってくるよりはどうしても町内でそれをまわしていくとい

う取組、これはとても大事だと私は考えておりますので、1点。

それから2点目です。資料2について、指定管理業務以外の業務、自主事業、これはこの中で地域産品販売要領の制定でございます。これは自主事業ですから、観光協会がいろいろ考えられていると思うのですが、やはりこの販売要領、ローカルルール、これはとても大事だと思うのです。実際にその施設でお土産品が並びますと、このお土産品が千歳空港で買えるようなメジャーな商品よりは、地元のローカル色が強い物を扱うべきだと私は思うのです。その中であって、これを観光協会さんの自主事業ですとした場合にやはり会員の縛りがあるのかと思うのです。観光協会で考えたときには観光協会の会員の方々を重要視しなければならない。ただ、観光協会に入らなくても商工会の会員の方々もいますし、農協、漁協、いろいろあります。それから入られていない方々もいらっしゃいます。大事なものは、そういったところを取っ払いながら地域にお金が落ちる仕組みをつくることなのかと思いますので、この販売要領、ここの町の関わり方、それからこの要領の考え方がどのようになっているのか、詳しくお聞きしたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 菊池経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（菊池拓二君） 私のほうから1点目の関係、ご質問についてお答えさせていただきたいと思います。まさに観光振興を図りながらまちの1次産業の底上げを図るということで、既にもう白老牛の生産者をはじめ、いろいろな方々、野菜生産も含めて皆さん4月以降を見据えて生産規模の拡大を図っていると町としても捉えているところでございます。まさに私ども町ができる部分、これは私どもが物を仕入れて売るといことはできません。収益をあげることはできませんので、ただ、私たち町ができる部分としましては、まずつなぐことはできるのかと考えておまして、現在一つ例にとりましてエントランス棟の中に参入する事業者が決定したと公表されております。その中には町内の社会福祉法人2団体入られるということも聞いておりますし、札幌市の事業者さんも入ると聞いております。当然、社会福祉法人をはじめ地元の事業者さんは地域色を出していただけるというのは、これは聞いているところでございますけれども、町外から入ってくる事業者様にいかに白老の1次産品を使っていただくかということは、これはまず1発目の営業は私たちの使命だと考えておまして、現在私のほうで入っていただく事業者さんにアクションを起こして、アポイントを取っているところでございます。こういうところは幅広く町内のほうで、星野リゾートさんも含めてそうですが、星野リゾートさんのホテルでも白老の食材を大いに使っていただくというような営業活動は行いつつ、その先は生産者の方々に一生懸命生産をしていただくというような考えで進めていきたいと捉えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 臼杵経済振興課参事。

○経済振興課参事（臼杵 誠君） 2点目のご質問で、地域産品の販売要領ということでございます。こちらについては、要領を制定する主体としては自主事業ですので観光協会ということになりますが、実務的には役場のほうで大いに絡んでといたしますか、一字一句調整しながら事務を進めたところでございます。地域産品の考え方というところでいいますと、まずは白老町産品というのが大前提としてあるわけですが、そうすると白老町産品というのは何を指すのだというところ

でいうと、白老町内で製造加工されたもの、OEMも含めてなると思うのですが、もしくは原材料が白老のものを使っているといったものを白老町産品というような定義にするのが1番いいのではないかと、いうようなところで、現在観光協会さん主体で逐次仕入れの交渉をさせていただいているところですが、白老町産品というくくりになるのが、おおむね43、44%くらいかと、ちょっとこれから商品がいろいろ入れかわるのでその数字は前後するかもしれませんが。そういったところでほかの類似の施設で道の駅とかを見てみると白老町産品、地元のもの割合が非常に多いといろいろな方から言われておまして、そのほかにどういう商品を並べていくかといったところで行くと、胆振地域の産品ですとか、あと四季彩街道の通年開業に伴って四季彩街道沿いのもの、もしくはアイヌに少し関連をしたもの。新千歳空港で売っているものはどうなのだろうということで、私どもも当初はそういうのはいらないのではないかと考えていたのですが、やはり外から来る観光客というところからいうと、そういった北海道の有名お土産品ランキングみたいなもので掲げられている、いわゆる誰でも知っているお土産品のようなものがあることが売り上げにつながるといういろいろな道の駅の方のご意見を聞いているとそういったこともあるものですから、あえてそういうものも入れながら、総体的にはほかのまちの道の駅よりも白老町産品が結構多めの品揃えということになっていこうかと思っております。あと、観光協会が自主事業で運営するので観光協会の会員さんについては、観光協会のほうで一通りお声かけをさせていただいているということで聞いてございます。そのほか商工会の会員さんですとか、そういったところに入っていない事業者さんについても必ずしもだめですということでは全くございませんので、そういった方々にもきちんと情報が伝わるような仕組みを今考えなければいけないということで観光協会と今相談をしているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 4番、貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） その中であって、例えば先進的な地域であれば道の駅の中に地場産品にこだわって加工施設をそこで持つ、レストランでは地元のお母さんの料理を提供するということでプリンをつくったり、そういったような新しい取組をすることもやられているところもあります。今回、本町の施設はそういう施設を設けていないわけですから、ただ、なくとも加工屋さん等ありますので、そういう連携により、今約43%というお話もありましたけれども、そこをいかに高めて、そして町民の方々が関わって、町民の方々の思いが詰まったような商品を提供していく。そのためにはやはり観光協会というしほりだけではなくて、幅広い展開が必要だと私は思いました。その中であって、先ほど菊池経済振興課主幹のほうからも答弁ありましたが、役所というのは計画はつくれますけれども、実行できないわけでありまして。その実行する今回の組織というのは何かというと、DMOなわけなのです。その中でいくと、やはりこの白老町役場職員は私はまちづくりの専門スタッフだと思いますし、これは町民の方々の信頼関係があるこの強みがこういった施設でいかに町民から愛され、売り上げを上げていくような施設になるか、ここは人材の関係はとても大事だと思うのです。先ほど来、何度も人事の案件であるからというお話なのですが、ぜひともこの町職員の中で覚悟を持って、この施設を拠点に地域の底上げをしていくという意気込みのある職員がこういっ

たことを担当していただきたいと感じております。

○委員長（広地紀彰君） 臼杵経済振興課参事。

○経済振興課参事（臼杵 誠君） ただいまのご質問の中で地元のお母さん方ですとか、そういったところで創意工夫をしてというようなところだと思うのですが、観光インフォメーションセンター、若干小ぶりなものですから加工施設を持つというのはなかなか難しいところはあるのですが、チャレンジショップのところといますか、新商品PRコーナーのところで調理ができるような設備があって、その中でそこは観光協会さんがまずは一時的にはやっていくということなのですが、今観光協会さんのほうでいろいろ地元の企業さんと連携をしながら新商品PRコーナーということですので、新しい商品の開発をしているところをごさいますて、ちょっとまだ物になっていないものですから、言いたいけれどもここでは言わないほうがいいのかということもごさいます。そんなことでチャレンジショップの新商品PRのコーナーでもっていろいろ新しい取組が町内で進んでおりますので、また形になった段階でご報告させていただければと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 最後にご提案というか、ご指摘もいただいた、今回のインフォメーションセンターのゾーンのこととの町役場としての関わり方については、先ほども申し上げたように非常に今回この部分については、これからの本町の活性化を図るために重要な位置づけにあるということは先ほど申し上げたとおりです。ですから、それに向けてどういう仕組みを町役場が持ちながらしっかりと人材も派遣も含めて、一応指定管理ということで観光協会のほうにお願いはするわけですが、それが主体ではなくて役場というか、町がまちづくりとして主体になっていかなければ、これはなかなか全体的に広まっていかなさうと当所の考えているところです。だからそういう意味合いも持ってDMOの関係についてもしっかりと町が責任を持ちながら今後の町の活性化に役割を果たせるような人材も含めて、内容的にも進めてまいりたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員の質疑はございませんか。

5番、西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 大体いろいろなことがわかってきたのですが、私もお伺いしたいことがあります。まず、もうあと1カ月半くらいなのなのですが、町内の宿泊状況がどうなっているのかと思ひまして。今、民泊も随分ふえているみたいなのですが、これはDMOを実施していく上で、町内の宿泊施設が少ないとずっといわれていますけれども、今までいろいろ努力をされてきていると思うのですが、実際の戸数と、それと最大限、現在収容できる人数、あとそれから東町のホテルのほうは休業状態になっているのですが、あれはどういう状況になっているのか、町としてどのような働きかけをしてきたのか、もししているのでしたらお話できる状況で結構ですのでそれをお伺いしたいと思います。

2点目が、あそこのポロトのアイヌ民族博物館のところから、新しくできた財団の建物から全てポロト湖の周辺にできているのですが、ところがポロトの中に入って行く道路というのは全然整備されている状況ではないですね。申し訳ないのですが、ちょっと天気のいい日は車で

走ると砂ぼこりが立ったりとか、そういう状況であって、やはり白老町として新たな形の魅力のある観光の資源の一つとして、あそこのポロトは必ず活用するべきだということは皆さんよくご存知だと思うのですが、それを今後どのような形で活用していこうというお考えなのか。というのは、その奥にあるキャンプ場、当然白老町に泊まる場所がないのだからキャンプ場にでも泊まりたいと思うので、そこの整備がきちんとされているかどうか。そういうようなこともすごく大事になってくるのではないかとと思うのですが、その辺どのようになっているのかお伺いします。

○委員長（広地紀彰君） DMOの取り組みの中身という部分に関連して、合意形成の条件の中でも宿泊事業者等々、参画をしながらDMOを構成していくと。そういった観点の地域DMOの取組の内容としての、そういったような関わりの中での関連質問だと思います。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時28分

再開 午前11時33分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） 時間かかりまして大変申し訳ございません。まず、町内の宿泊施設の状況でございます。現在、竹浦、虎杖浜地区、白老地区、一部萩野地区もございまして、トータルで25施設ございます。これは民泊は含んでおりません。収容人数としては1,039人でございます。それと質問にもございました民泊の部分でございますが、民泊として登録されているものにつきましては12施設ございます。これらの宿泊の需要に耐えられるかどうかということところでいうと、総論的なお話をさせていただきますと、北海道内、あるいは胆振管内の観光客に占める宿泊者の割合というのがおおむね大体18%ぐらいで推移しているところが、実は白老町の場合は5%台と聞いております。ということではいいますと、白老町の宿泊率というのは、施設の今の既存のものでこの18%の平均値までもっていけるかといいますと、なかなか現状ではそうはならないというところがございます。ただ、宿泊のニーズとしてはいろいろなニーズがございまして、高級路線のものから民泊まで含めていろいろなニーズがありますので、その辺は新たなものの、今回できる星野リゾートさんもそうですけれども、そういったものも含めながら受け入れ体制は整備していかないとしないのかと思っております。それとヴィラスピカのお話かと思えます。これについては後ほど副町長のほうから答弁させていただきます。それとポロトのキャンプ場の部分につきましては、ここについては観光協会が現在指定管理者として指定を受けて管理運営を行っておりますので、当然ながらこのキャンプ場というものも宿泊需要に対応する重要な施設として捉えておりますが、ただ、今お話があったそこまで行くまでのアクセスの道路の部分の整備につきましては、まだ現在具体的なめどが立っていないというのが現状でございますので、ご理解いただければと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 東町のホテル、ヴィラスピカの関係です。結論からいくと、新しい進展は現在はないと。道のほうにもこういう形で進めていきますということは所有者の方からは聞いていないという状況です。今も何人かの人が来られて管理は行っているということなので、だからといってすぐ動きがあるかどうかわかりませんが、管理自体はされているという状況でございます。

○委員長（広地紀彰君） 5番、西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 宿泊施設のことについて聞きましたのは、先日私たち議員で奈良と京都の博物館のほう行かせていただいたのですけれども、奈良のほうではやはり白老町と同じように宿泊施設がほとんどないと。ほとんど京都のほうに泊まってしまうと。そういう状況の中でおいしい部分が全部京都にとられてしまうと。奈良としてはきちんとしたホテルがほしいということで、最近駅前とかに大型のホテルなどをつくったりして、宿泊施設をきちんと整備する必要があるだろうということで今動いているというお話も伺いまして、白老町もお隣に登別温泉という大きな温泉施設はありますけれども、そこに泊まれるお客様と白老町に泊りになられるお客様とはお客様のタイプが違うのではないかと考えているのです。特に今若い方々は民泊というお話もありましたけれども、非常に安いお金で旅行をしようという節約志向の進んでいる人たちが多くて、そのホテル代を安くしてその分おいしい料理を食べようとか、楽しい体験をしようという旅行が変わってきていると聞いております。そういうことを考えると白老町もそういうところを戦略的に考えてやっていくのも一つの方法かと思ひましてお伺いさせていただいたわけなのですけれども。ですからポロトのほうの道路一つにしても、やはり体験型の白老町であるのであれば体験できるような、そういうものに整備するために努力するべきではないかと思ひているのですけれども、お考えをお伺いします。

○委員長（広地紀彰君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ただいまのご質問にお答えしたいと思います。お話あったとおりお客様のニーズが多様化していてタイプの違うお客様、宿泊代を安く済ませて美味しい物を食べるというところでいうと、泊食分離というところが今結構クローズアップされているのかと思ひております。実際に今の町内の状況を見ると、高級の価格層の宿泊費のホテルであったり、あるいは低料金で泊まれるところもありますが、やはり今1番うちのまちで不足している部分というのはスタンダードクラスのビジネスホテル、そういったものがまちとしてはぜひあってほしいというところがございます。いろいろな場面を通じて、今駅北の民間活力導入区域の部分も、まだ参入事業者が決まっておきませんが、そこも含めて、あるいは白老の駅前でもいいでしょう、そういった宿泊施設の誘致活動というものを積極的にやっつけていかないとならないかと思ひております。

○委員長（広地紀彰君） 8番、大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） 8番、大淵です。1点だけお尋ねします。先ほどから副町長、人事のお話をされておりました。これを見ますと地域DMOは年間3回程度の開催を得て本登録を目指すという書き方なのです。私はこういう問題というのは、ことし4月オープンするわけだから、やはり早くなかったらこれはどうにもならないのではないかと自分では思うのです。だからきちんと目

標を持って、これぐらいまでをめぐにと。1番先に聞きたいのは、第1回目の戦略会議で出た意見
いいです。こんなことと、こんなことが出たという。私が言いたいのは本当に積極的でやる気があ
るのかどうかということなのです。同時に、これをやるとしたら人なのです。もう私は政策と人し
かないと思っているのです。そうなれば、副町長先ほどそうやっておっしゃっているけれども、実
際にことしの4月からきちんとした体制をつくと町として考えているのか。具体的にことしの4
月からきちんとやるということなのか。それともこのDMOの状況を見ながらやるというようなこ
となのか。私はそういうことは時期を逸したら意味がなくなるのではないかと思います。だから、
その辺が見えてこないものだから何かすっきりしないというか、そういう感じなのです。どこがど
ういうふう動いてこうなるというものが見えてこないのです。何か小出しで出しているような気
がしてしょうがないのです。それはどういう意味かということ、やはり危険なことをしたくないから
そうなのか。その辺、やはり腹をきちんと据えないとだめではないかと思うから、その2点どう
いう意見が出たのか。本当にやるという状況なのか。その辺含めて町はどう思っているかというあ
たりをきちんと聞いておきたいのです。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 2月7日の戦略協議会で主だった意見として私のほうからお答
えさせていただきます。一つは、やはり多かったのは白老はたくさんの観光資源があるというよう
なことがあって、それが今まで点と線で結ばれていないと。そういった形からこのDMOがきちん
と組織立てて戦略を立ててやっていけるのかというのが1番多くの意見としてございました。また、
やはり補助金依存型ということで、DMOはこれから立ち上がっていく中でその補助金依存型から
脱却できるのかだとか、そういった意見が多くありました。また、アイヌ文化と地域の資源を融合
させた施策の取組だとか、あと安定的な収益をどう確保していくのかというのが主だった意見とし
てありました。こちらでは年3回の戦略協議会でとなつてございますが、ここは大もとになってご
ざいますので、またこれが個別の例えば飲食店だとか、地域に特化した部分だとか、そういうよう
な交えた個別の戦略会議というのですか、グループワークみたいのもしていきながら、また町とし
ては観光の計画ですとか、そういう観光消費額だとか、そういう戦略的なデータを提供して観光協
会と連携しながらDMOの本登録は目指していきたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 4月24日にウポボイが開設すると、そういうようなことの中で役場の体
制的なことについては、それを見合ったつくり方は十分考えていく体制づくりを進めていきたいと
思っております。ただ、新たな部署の立ち上げだけではなくて、人材的な部分での押さえ方につい
て、今まで人事の中で象徴空間の整備主体の体制づくりをしてきたのですけれども、その部分の
まだ残っている部分がありますから、そのところは一部残しながらも新しい体制で人の立ち上げ
は、それはしていかなければならないと考えています。

○委員長（広地紀彰君） 8番、大淵紀夫委員。

○委員（大淵紀夫君） 8番、大淵です。基本的にはわかりました。要するに言いたいのは、役場

が指導するというのは政策的にはすごく大切なものだけれども、そこに全部頼ってしまったらこれはできないのです。お金をどこかからもらってきて、私たちお金を出さないけれども何とかやってみてくださいとかでは全然だめでしょう。だからそういうところから抜けていかなければだめです。今そここのところなのです。だから人が必要だと私は思うのです。だからそここのところを町がきちんと押さえて、誰か先ほど言っていたけれども、政策的に町が政策の部分ではリードしながら、今回はやはり人の部分までいかなかったらなかなか大変ではないかというのが私の主張なのです。そうだとしたらやはりDMOも人も期限をきって、ここまでやるというようなものでやって、DMO本登録できなかったらそれで終わりとなるのかどうかかわからないけれども、要するにそういう構えがないとだめではないかと思うのです。その辺が本当に、今までたくさんのこういう会議やるのだけれども、本当にまちでどうするかという、星野リゾートも来るとなったらそここのところやはりきちんと町がおとしていくということが必要だということでは言っているのです。人のことはわかりました。その辺だけ、もう少しはっきりしたほうがいいのではないかと思うのです。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） DMOの関係です。今いろいろご説明はさせていただきました。その中でいつまでに目的を達成するためのそういったことを、登録だとかそういったことはしていきますという今の時点では、いついつまでという答えは出せないのですけれども、この部分につきましては、もう4月からスタートしますので、できるだけ早く目的を達成するために努力していきたいと思っていますし、それは役所としても主導というのですか、一緒に取組ながら、役場が全てのことをやるということではなくて、そういう中で取り組んでいきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） それではほかの委員、質疑はございませんか。

森哲也副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 7番、森です。資料3のロングランイベントの開催について、こちらに関連して質問していきます。まずこちらのほうのロングランイベントの内容は現在検討中ということで、これからということではありますが、先月新聞報道でロングランイベントの開催などもありまして港まつりが中止になるという報道を見ました。今後このロングランイベントが毎年開催されて港まつりの継続性というのはどうなるものなのか。今年度のみ中止なのか、来年度以降の動向などについて分かるところがあればお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ただいまのご質問にお答えしたいと思います。ロングランイベントにつきましては、これはウポポイの開業に合わせて集客力を相乗的に高めるといった狙いもございまして、ここの部分は今年度限りと捉えております。ただ、これは本当にやる気がある事業者さんがあそこの交流広場を活用して自ら何かイベントをやりたいですとか、物を売りたいといったものに対してお貸しできる場所ということで位置づけておりますので、ロングランイベントに限らず、いわゆるいろいろな各種団体があそこを拠点にして何かフェアやイベントをやりたいというものに対しては門戸を広げて開放していきたいと捉えております。今、港まつりのお話がございまし

たけれども、お話し合ったとおりいろいろな諸事情がございまして、令和元年の港まつりは終了するというごさいます、これにかわるお祭りというものを今後どうしていくかということは令和2年度の、今年度のロングランイベントに終始といいますか、職員の仕事もそちらのほうにどうしても傾注しないとならない部分はあるということで、一旦港まつりにかわるお祭りというのは、令和2年度かけて再考しなければならないと考えております。では港まつりにかわるイベントをどうするかというところでいいますと、例えば令和3年度以降、ウポポイの中でそういったお祭りごとのできるのかですとか、あるいは今の大大商店街の皆さんが一念発起して、またここの大町の商店街でお祭りをやるのだというようなお声が出てくるのか、その辺はまだ見えてはいませんけれども、港まつりについては令和元年度で終了、3年度以降のこれにかわるイベントというのは令和2年度をかけて再構築しなければならないのかと考えております。

○委員長（広地紀彰君） 7番、森哲也委員。

○委員（森 哲也君） 7番、森です。港まつりについては終了したということなのですが、あそここの場所で祭りが行われたことによって港の場所の草刈りなど清掃活動もされていたと思うので、やはり継続的にそういう清掃活動等は今後もやっていくことであそここの場所は町民の憩いの場所でもありますのでしていくべきだとも思います。また、4月24日からロングランイベントの開催ということですが、世界的情勢でもコロナウィルスの影響がこの時期までには治まっているとも考えづらいので感染対策というのも今後考えていかなければならないのかと考えております。それで、その他の質問になると思うのですが、現在駅前南側の広場のほうで工事が大体終わりがけて全容が見えてきているところではありますが、以前議会のほうでも質問の答弁で店舗の移転に関しての交渉が難航しているという答弁がありました、もう間もなく3月になりますので今の現在の状況はどのようになっているのか、そこを確認します。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 駅前広場の今ある家の部分の状況だと思います。経過につきましては、去年の年末まで北海道と交渉をさせていただきました。町としてもその段階でできる、まちとしてできる提案をさせていただいたのですけれども、結果として今使われている方がいいよと言っただけなかったということで、北海道のほうの判断で収用という手続きを取るという形になってしまいました。この手続きを取った場合にどうなっていくのかということなのですが、北海道からは必要な書類を準備して年度内、3月中までには北海道が持っている収用委員会のほうに届け出を出すということになります。それを提出することによって受理されて、それから必要な手続きというのですか、そういうことが進んでいくと思うのですけれども、それがどのぐらいかかるのかという部分が出てくると思うのですけれども、北海道の言い方としては約1年以上はかかってしまうということらしいのです。あの建物を使用している人がもういいですというのなら別ですけれども、もし淡々と進めていかなければだめだとすれば、令和2年度であそこが整備というか、きれいになるかということはわからない状況なので、令和3年度以降に建物の撤去と整備が行われると北海道のほうからは聞いております。

○委員長（広地紀彰君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） 新型コロナウイルスに関わってのご質問でございます。4月24日からのロングランイベント開催時期までどの程度、今の状況が終息するのか。あるいは伸び伸びになってくるのかというところはちょっと読めない状況ではございますが、先般行われました札幌雪祭り等々ではやはり入場客の大幅な減少というような事態に陥っているというのも理解してございますし、町内の宿泊施設においても大口のキャンセルがあったり、そういった大きな影響が出ているということも理解はしております。4月24日からスタートということになりますが、その時期の終息度合いによって開催を行うかどうかというところは結論を出していかなければならないかと思いますが、少なからず、イベントに参加される方にマスクを配布するとか、あるいはアルコール除菌を設置してというようなことも、場合によってはそういった対策を取らなければならないかという場合は出てくると思います。ただ、いかんせん今そういったマスクやアルコール除菌、こういったものの物資が不足しているというのも現状でありますので、その辺は、その時期の物資の供給度合い、この辺も見計らった中で対応したいと思っております。

それと港の美化の部分です。これまでは港まつりの開催にタイミングを合わせて港湾で出入りしている、利用している工事事業者に地域貢献として草刈りをお願いしていた部分でございます。今後、港の観光美化というものが、今森副委員のあったとおり懸念される部分ではございますがやはりなかなか職員が自らやるというのは限界がございますので利用させていただいている工事事業者に、例えばその土地を貸し出す場合に周辺の草刈を義務づけるといいますか、お願いしていくといったような対策を取っていきたいと考えております。

○委員長（広地紀彰君） それではほかの委員からの質疑はございませんか。

6番、前田博之委員。

○委員（前田博之君） 先ほどの答弁の中で駅からの動線の話でいろいろ提案がありましたけれども、正直な話インフォメーションが万能ではないのです。その辺はやはり考えて物事を押し進めないと、結果的にそちらに責任転換して行政としての施策をどうあったかということの部分が見えてこないと思います。そういうことで一つの例を挙げると、JR北海道の今お客さんといったけれども、多くは自家用車の方が来ます。その動線が先ほど言ったように白老町の商店街にどうまわすかと。来たときに現状を見れば駐車場の位置も何もわからないのです。共通の素敵なデザインをした看板で駐車場の位置を示すとか、あるいは昔の柏村旅館のところに買い物のための駐車場をつくただけけれども、ほとんど関係者です。私もあそこの隣にあったところに行くのだけれども、食事時に行くときに停まらないときがあるのです。そういうこと自らそこの商店の人方もお客さんを呼ぶために何をしなければいけないかということを自主的に考えて、先ほども議論されてはいたけれども、きょう議論したのは結果的に全ては経済行為です。そうでなければ行政が経済行為の責任とれませんから、お互いに儲けていただきたいと。そのために何をするかということはやはり経済会も上げて町と足並みを揃えて行動しなければいけないと思うのだけれども。一つの例をとっても今言ったように、ウポポイから自家用車で踏み切りを渡って白老商店街に入ったときに駐車する場所す

ら今わからないのです。町民からも私は聞いています。そういうことのもっとも民間人を含めた共通認識の上でおもてなしという言葉は使いたくないけれども、お客さんをお呼ぶときにどうするかということをもっとも、きょう見ても何か非常にその辺が欠けている部分があるのでやってほしいと思うのです。言っていないかどうかわかりませんが、やはりマザーズがオープンすれば驚異的になると思うのです。お客さんの流れがかなり変わると思いますが、その辺も含めて白老町として観光客の誘導をどうするかという動線を考えられているのかどうか。それと今言ったように商工会等々の自らそういうお客さんをお呼ぶために駐車を確保するためにどのような行動様式を取ってお迎えするのか、その辺十分に議論されていますか。それで終わります。

○委員長（広地紀彰君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 今、前田委員のほうから質問のあった部分です。交通の部分なのですが、先ほども答えた部分でありますけれども、国道だとか、道道につきましては北海道、それから開発局のほうで案内板という形の中で整理はしていくということになっています。ただ、その整理された部分については、高速から降りてきた道路を使った中で入ってくださいということなのですが、今度まちの中の動きはどうなるのかという部分については、今の段階で正直こういう手法がありますということまでは今は話が進んでいない状況です。もうすぐオープンしてしまいますけれども、そういった中は状況を見てから遅いのではないかとと言われるのは確かにあると思いますけれども、そういう状況ではありますけれども、やはり状況を考えながら、推測しながらどういう手が取っていけるのかとしていかなければだめなのかと思っています。それからまちの中の駐車場の関係なのですが、物理的にどこか空いている部分があるとか、そういったことは余り考えられないのかと思いますけれども、商工会だとか、関係するところとお話し合いをさせてもらいながら、こういった場合になったらどうなるのかとか、そういった話し合いをしながらできる限り白老町に来てくれる来訪者の方に満足してお帰りいただけるようなことをしていきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） それではほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

それでは、これで質疑を終了いたします。

次に、5項目めの、その他について、その他質疑がございましたらどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 質疑なしと認めます。

それでは、これで質疑を終了いたします。

次回、本特別委員会の開催日は正副委員長で調整して別途通知することといたします。

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これをもって本日の特別委員会は閉会いたします。

(午後 0時04分)